

# 2024 年度活動助成 活動実績報告書

団体名	大阪府大規模災害リハビリテーション支援研究会
活動テーマ	災害時のリハビリテーション支援の普及とレベルアップのための研修会開催と指導者育成の取り組み

### 「災害時のメンタルヘルスケア」

～サイコソジカルファーストエイド(Psychological First Aid:PFA)～

日時:2024年7月14日(日)19時30分～21時

開催形式:web会議サービス「zoom」を使用します

\*ZOOM ID-PASSは申し込みいただいた方へお伝えします



「見る」「聞く」「かくやく」の活動の順序をもとに人ひとに寄り添い、ニーズを把握する方法。人ひとの心に届くような声かけのやりかたを学んでいきます。

講師  
大阪DPAT(災害派遣精神医療チーム)  
社会医療法人北斗会 さわ病院  
作業療法士 村上 恵子

対象:医師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士などのリハ関連職種、学生



第47回 BHELP標準コース webコース

受講生募集案内

BHELP(Basic-Health Emergency Life Support for Public)とは、被災地での活動を効果的・効率的に実施するために災害対応における知識、共通の言語と原則を理解し、被災者の生命と健康の維持、災害発生直後からの被災地内での災害対応能力の向上に資すること」を目的とした日本災害医学会の教育コースです

日時:2024年7月27日(土)9時00分～16時30分

開催方式:web開催 (使用ツール:Zoom® (https://zoom.us/))

※通信環境の準備はご自身でお願いたします

受講対象:被災地域内で発生直後から支援者となり得る医療・保健・福祉に関連する専門職及び、その受験資格が可能な教育機関の学生、防災業務に従事する行政職員

募集人数:24名 \*定員に達し次第申し込みを終了する場合がございます

受講料:4,000円 事前振込 \*受講料の滞りなく振込先をご案内します。入金確認後、受講確定となります

コース運営責任者:大塚 昌之 (所属:愛仁会本部)

主催:大阪府大規模災害リハビリテーション支援研究会

助成:JR西日本あんしん社会財団

【コース概要】

軸は CSCA+料:Healthcare Triage(ヘルスケア・トリアージ)、Helpline Hand(手を差し伸べる)Handover(つなぐ)

- 1) 講義
  - 災害医療体制の概要と医療対応の原則
  - 避難所、福祉避難所の概要、体制構築および運営上の留意点
  - 避難所の環境改善に必要な情報収集のためのアセスメントシートの活用
  - 避難所生活により生じやすい健康問題とその予防法
  - 被災地域内外の支援者との連携協力
- 2) 演習:講義で学習した内容を活用して、以下の演習を行います。
  - トリアージ・保健福祉的視点によるトリアージ・CSCAを模擬した対応
  - ヘルプラインコール(電話応対)・手話対応(視覚的支援)の演習
  - 避難所の環境改善

### ～THEME～

災害リハビリテーション支援活動とは  
能登半島地震での活動から学ぶ

令和6年度 第3回 大阪JRAT研修会

◆ 日程:2025年1月25日(土)13時00分～16時00分 【受付】12:30～

◆ 場所:ZOOMでのオンライン講義 参加費:無料

タイムスケジュール

- > 13:00～13:30 『能登半島地震におけるJRAT活動について』  
講師 理学療法士 森健太郎氏(石川県済生会金沢病院 石川JRAT)
- > 13:35～14:05 『能登半島地震におけるSTの活動について』  
講師 言語聴覚士 金沢一恵氏(かがやきクリニック 石川JRAT)
- > 14:10～15:30 『大阪JRAT支援活動者における活動報告』  
活動報告者  
理学療法士:大黒健太(大阪医科大学大学院)本部活動:石川JRAT本部  
理学療法士:中田貴士(大阪南医療センター)地域移行:珠洲市  
作業療法士:池本恭子(箕面市立介護老人保健施設)3月:避難所活動  
作業療法士:宮代宗津子(豊に会いリハビリテーション病院)  
言語聴覚士:田中家三江(府中病院):輪島市、スポセン本部  
言語聴覚士:橋俣一郎(あかもと訪問看護アソシエ):大阪での後方支援

### 第8回 災害リハビリテーション支援研修会

大規模災害時、重度障害者が生き残る道

2025年1月25日(土)13:00～14:30

主催:大阪府大規模災害リハビリテーション支援研究会  
大阪・兵庫頭脳損傷者連絡会  
助成:JR西日本あんしん社会財団

【プログラム】

13:00～ 開会の挨拶  
大阪急性期・総合医療センター リハビリテーション科 土岐明子

13:05～ 発表:大規模災害時に備えて当事者の取り組み

- 個別避難計画の作成と実践 京都頭脳損傷者連絡会 木村善男
- 地域住民との合同避難訓練 自立生活支援センターある 鳥屋利治
- 災害に向けた準備 エイブル・パフォーマンス集団「ガラ(榜)」 遠藤善生
- 人工呼吸器使用者の避難マニュアルを作成 兵庫頭脳損傷者連絡会 米田進一

14:15～ 質疑応答・開会の挨拶  
総務だいちつ病院 副院長 富岡正雄

この活動は、災害時にリハビリテーションを必要とする方々への支援を円滑に行うため、その担い手となる人材を育てることを目的としています。日本災害リハビリテーション支援協会(JRAT)は2013年から被災地での支援を行っていますが、現時点では教育体制が十分とは言えません。そこで大阪では、私たちが中心となって、実際の災害現場に役立つ知識や技術、心構えを学べる研修を継続的に実施しています。特に、避難所での支援や障がいのある方への対応、支援活動を支える体制づくりなどは、通常の教育機会では学びにくいため、1年を通じて学べる機会をつくっています。

また、こうした活動を続けていくには、教える立場の人を育てることも大切です。大阪での指導者を増やすとともに、近隣府県とも連携して、互いに助け合えるしくみづくりにも力を入れています。

研修としては、地域保健・福祉の災害対応を学ぶ「BEHELP」と、こころの応急手当てを学ぶ「PFA」をそれぞれ年2回ずつ開催しました。このうち BEHELP の1回は、コロナ禍でオンライン開催された内容を改めて対面で実施し、受講者・指導者ともに実践的な学びが得られたと好評でした。

そのほかにも、リハビリテーション職の専門学校での講義を2回実施し、大阪 JRAT が企画した研修会にも共催という形で関わりました。さらに、近畿ブロックでの防災訓練にも大阪 JRAT の一員として参加し、実際の災害対応や関係機関との連携を現場で体験しました。

また、頸髄損傷の当事者の方々と合同研修会では、災害時の個別避難対策について、多方面からの意見を待ち寄り、活発な意見交換を行いました。